

MUSEUM

EYES

2005 Winter

ミュージアム・アイズ

Vol.

39

Mm
MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

● 特集 文部科学省委託事業

白雲なびく駿河台 地域子ども教室

明治大学博物館に遊びにきませんか!

弥生再葬墓岩櫃山(いわびつやま)遺跡—群馬県吾妻町の重要文化財に指定

坂本万七写真研究所コレクションの寄贈

収蔵室から 錦絵「里見八犬伝之内芳流閣之図」

「エムツー」カタログ

博物館講座2005のおしらせ

来た・見た・聞いた 明治大学博物館

博物館友の会から



伝 世田谷代官 大場彌十郎所用十手

彦根藩井伊家が領する世田谷(東京都)の地で、代官として支配にあっていた大場彌十郎が用いたといわれる十手。十手の柄縁と柄頭に、丸に並び矢羽根の大場家家紋が銀象嵌されている。かなり大ぶりの十手で、握柄の鮫皮装飾も立派。本資料のように、十手の元の使用者が分かる例は極めて稀。

「名和コレクション」:全長52.7cm,重量800g。

明治大学博物館

白雲なびく駿河台 地域子ども教室 開催中!

Opening of the culture room for town kids.

明治大学博物館は今年、小学生から中学生を対象とした「地域子ども教室」を開催しています。期間は、昨年の10月から今年3月までの半年間で、毎月2回土曜日に実施しています。

「教室」では、特別企画もある体験学習（ハンズ・オン）や、学習シート（アクティビティ・シート）をつかった展示学習を行っています。わたしたちは、これからの大学博物館のあり方の一つとして、商品・刑事・考古部門がもつ個性的な博物館資料を最大限に活用しながら、さまざまな方法と場所で地域社会との連携を深めていくことが重要であると考えています。

体験学習会（ハンズ・オン）に来ませんか？



オオツノジカの「ヤベ君」

発掘した土器・石器の水洗い体験ができるよ！土器の様も観察できます。



▲考古ハンズ・オン 土器を洗ってみよう。



「めいじろう」

江戸時代のからくり人形の仕組みやうごきができるよ！十手もあります。



▲刑事ハンズ・オン 十手は意外に重たいな。



張り子の「トラ雄」

伝統工芸品の手触りや作り方がわかるよ！職人さんのお話もあります。



▲織物の仕組みを調べよう。

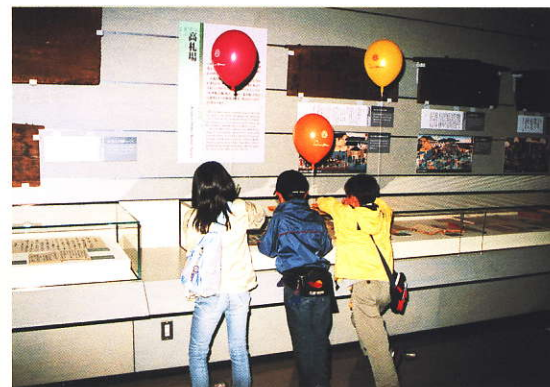


▲商品ハンズ・オン 「染織」にチャレンジ！

学習シート（アクティビティ・シート）にチャレンジ！

展示学習のねらいは、実物資料をみながら子どもたちの「考える力」を養うことです。

展示室では学芸員とガイドボランティアが学習シート（アクティビティ・シート）をもとに分かりやすく指導します。また、その過程では子どもたちとご両親とのコミュニケーションも大切です。学習シートは達成するたびにポイントがたまる仕組みになっています。



▲高札って何だ？

明治大学博物館 アクティビティ・シート Mm

むかしの人びとがつかった道具です。.....

考古学の展示室のどこにあるか、さがしてみよう。
みつかったら、シートに「あ」から「こ」の記号を書きましょう。

これは、黒曜石でつくられた石器です。水河時代に、獲物をつかまえるためにつかわれた道具です。これを棒のさきにつけて捕にしました。どんな獲物をとっていたと思いますか？

記号

これは、骨でつくられた釣針です。いまから8000年前の縄文時代のもので、すこし小さいけれどもみつかったかな。

記号

これは土偶です。縄文時代につくられた土の人形です。じょうぶな子どもが生まれるようにとか、たくさん木の葉がとれますようにという気持ちでこめられています。

記号

▲学習シート（アクティビティ・シート）はこんな感じです。

■ 地域子ども教室「体験学習会」スケジュール ■ (2005年1月～3月)

1月22日 ・ 考古学ハンズ・オン学習塾スペシャル「石器をつかってみよう」

ゲスト:小菅将夫さん(笠懸野岩宿文化資料館学芸員)

1月29日 ・ 織物・染物ハンズ・オン学習塾

2月19日 ・ 考古学ハンズ・オン学習塾

2月26日 ・ 大江戸駿河台歴史探検「地域史跡マップづくり」

3月5日 ・ 考古学ハンズ・オン学習塾

3月19日 ・ 大江戸駿河台歴史探検スペシャル「手づくりマップをもって町にでよう」 要事前申し込み03-3296-4448

ゲスト:中西隆紀さん(NPO法人神田学会)

- * 「展示学習会」も毎回開催しています。「体験学習会」とあわせてご参加ください。
- * 「展示学習会」「体験学習会」いずれも毎回午後1時から開催しています。参加自由です。ただし、3月19日「歴史探検スペシャル」のみ事前の申し込みが必要です。
- * 「白雲なびく駿河台地域子ども教室」のお問合せは博物館事務局(03-3296-4448)まで。



▲岩櫃山山頂付近の遠景

岩櫃山遺跡は、1939(昭和14)年11月、杉原莊介氏(明大考古学専攻・同陳列館創設者)らによって、弥生時代前期後葉から中期初頭にわたる再葬墓が発見された遺跡です。岩櫃山は、標高802mの険しい山で、その頂上付近にある「鷹ノ巣岩陰」と呼ばれる地点から、土器21個体、石器数点、そして人骨数点が出土しました。人骨が出土していること、また土器の中にはほぼ完全な形を保っているものが多いことから、この遺跡は一度埋葬した遺体を取り出して洗い、骨だけの状態にしてからさらに土器に入れて埋葬した、再葬墓であると考えられています。再葬墓研究の端緒となった遺跡として著名です。

この岩櫃山遺跡出土資料のうち明治大学で保管されている土器9個体と土器片、骨片一括が、このたび2004年7月22日に群馬県吾妻町によって町指定重要文化財となりました。これを記念して吾妻町では特別展「祖霊の山岩櫃—鷹の巣遺跡と弥生の墓制—」を開催し、町が誇る文化財を一目みようとして約2000人の来館者がありました。いわば、土器がお里帰りをしたわけです。また小林三郎氏(明治大学教授)による記念講演「弥生時代の社会構成」も行われ200人近い参加者でにぎわっていました。



▲岩櫃山遺跡出土弥生土器



▲特別展「祖霊の山岩櫃」での展示

坂本万七(1900-1974)は、大正から昭和の戦前、戦後にわたって活躍した写真家です。坂本万七写真研究所を主宰し、考古遺物や柳宗悦らと調査した民芸作品、陶磁器などの撮影者として知られています。坂本万七写真研究所を受け継いだご子息の坂本明美氏(本学考古学専攻卒業生)もまた写真家として当館所蔵資料の撮影を手がけています。今回、坂本明美氏より、坂本万七写真研究所が保管する写真のうち考古遺物、仏教美術、陶磁器関係の膨大なネガ、紙焼きを当館に寄贈していただきました。今後、この学術的価値の高いコレクションの体系的な整理を行い、写真展などに活用していく予定です。



▲坂本万七写真研究所撮影虎塚古墳の石室内部(茨城県ひたちなか市所在)

錦絵「里見八犬伝之内芳流閣之図」



国清画 安政2年2月版 版元加賀屋(大錦3枚続:1998年度新収資料)

刑事部門は、導入展示に法制資料である古文書と、高札を掲げています。その中で当時の高札場の様子をうかがうことのできる絵画資料(「東京自慢日本橋御高札場之図」広重筆他1)が併置されていることに気付かれたでしょうか。これが錦絵ですが、ヴィジュアル性の高い資料である錦絵は来館者にも親しみやすく、資料理解の大きな助けとなっています。今回の「収蔵室から」は館蔵錦絵の一つ「里見八犬伝之内芳流閣之図」をご紹介します。

—資料の解説—

題名に「里見八犬伝之内芳流閣之図」とある通り、曲亭馬琴(1767-1848)作の『南総里見八犬伝』(以下「八犬伝」)のワンシーンです。『八犬伝』は、9輯98巻106冊からなる大長編小説で、文化11年から天保13(1814-42)年にかけて発行された読本です。『八犬伝』は戦国時代末期、安房国の里見家再興をめぐる八犬士の活躍を描いた史伝体小説で、『水滸伝』の構想にならい、あわせて様々な資料を調査・参照して執筆されています。『伝奇小説』の側面と、作品全体に著者の勧善懲悪的世界観が色濃く表現されていることから、江戸庶民に大変人気の高かった作品です。芳流閣の格闘は『八犬伝』第三輯のひとコマで、スパイと疑われた犬塚信乃戊孝(太刀を振っている右側の人物)と、捕り手である犬飼現八信道(画面左の十手を手に持つ、華やかな衣装の人物)の戦いの様子を描いています。『八犬伝』を題材とした錦絵の中でも、芳流閣の格闘シーンを扱ったものは数多く発行されており、当時の人気しのげられます。

注目していただきたいのは、追手が用いている道具です。「番所三つ道具」と呼ばれる捕者具「突棒」(画面右のT字型の道具)・「刺股」(中央に見えるU字型の道具)・「袖摺」(屋根の向こうから先端部分が見える)によって、犬塚信乃戊孝を追い詰めています。向こう鉢巻に襷掛けをしている追手の中には、十手を持っている者もいます。現在、私達は捕者道具の使用法を、このような錦絵などの絵画資料からも知ることができるのです。捕者道具によって追い詰められた犬塚信乃戊孝は、大立ち回りも空しく、この直後に犬飼現八信道と格闘しながら、芳流閣上から眼下に流れる利根川へと転落するのでした。

注目していただきたいのは、追手が用いている道具です。「番所三つ道具」と呼ばれる捕者具「突棒」(画面右のT字型の道具)・「刺股」(中央に見えるU字型の道具)・「袖摺」(屋根の向こうから先端部分が見える)によって、犬塚信乃戊孝を追い詰めています。向こう鉢巻に襷掛けをしている追手の中には、十手を持っている者もいます。現在、私達は捕者道具の使用法を、このような錦絵などの絵画資料からも知ることができるのです。捕者道具によって追い詰められた犬塚信乃戊孝は、大立ち回りも空しく、この直後に犬飼現八信道と格闘しながら、芳流閣上から眼下に流れる利根川へと転落するのでした。

—錦絵人気の秘密—

なぜ錦絵は人気があるのでしょうか?先に述べたような「分かりやすさ」に加え、「絵解き」の面白さが挙げられるでしょう。例えば、実際の事件を直接に表現することを憚り、事実を古典等に仮借する「見立て」などの表現技法が凝らされている場合もあり、その楽しみ方は実に奥深いものです。錦絵には消費者(鑑賞者)のニーズに応じて、絵師や彫師、摺師、版元により様々な工夫が施されています。彼らの不断の努力に支えられた成果が、来館者の心に届いているのではないのでしょうか。これらが相まって、高い人気に繋がっていると思います。(高野弘之)

ミュージアムショップ「エムツー」で販売しているグッズを紹介するこのコーナー。

第2弾は、エムツーオリジナルマグカップを紹介します。

エムツーオリジナルマグカップは、遮光器土偶がデザインされている、白くておしゃれなマグカップです。しかも、厚手で壊れにくく、幅広い用途につかえます。土偶は、その豊富な体形から、豊穣を招くことが期待され、祭祀等に用いられたといわれています。この霊験あらたかな土偶デザインのマグカップを持てば、何かいいことが起こるかも!



定価1,470円

売上ベスト3(9月~11月)		
第1位	ミニタオル(土偶)	475円
第2位	クリアーファイル(土器)	420円
第3位	Tシャツ(土偶)	1,890円

博物館公開講座2005(4月～8月)

明治大学の生涯学習講座「リバティ・アカデミー」と連携した市民のための本格派博物館講座です。おなじみ「考古学ゼミナール」に加えて、「寺子屋講座」がスタートします。

博物館公開講座

第37回「考古学ゼミナール」

「明大考古学」の過去と現在—考古学の礎と多様性PART1—

第1講	石器研究の基礎と黒曜石考古学の構築	安藤政雄 (明大教授)
第2講	縄文時代の遺跡群と地域社会	阿部芳郎 (明大助教授)
第3講	「日本農耕文化の生成」と現在の弥生研究	石川日出志 (明大教授)
第4講	東国古墳の発掘と「国家形成論」	佐々木憲一 (明大助教授)
第5講	積石塚の発掘と渡来人の研究	小林三郎 (明大教授)

* 6月3日～7月1日の毎週金曜日18:00～20:00/定員250名

博物館公開講座

「寺子屋講座 文体が語る法・ひと・歴史—明治大学コレクションから1—」

第1講	法の歴史への旅立ち—博物館ガイドツアー—	伊能秀明 (明大専務)
第2講	高札と「御高札之写」—お触れと法の伝達—	伊能
第3講	生類憐れみ令—世界的悪法か、それとも?—	外山徹 (明大博芸員)
第4講	寺院法度—我々にはなぜ権家寺があるのか—	外山
第5講	村法 パート1—村の治安と懲らしめの法—	日比佳代子 (明大博芸員)
第6講	内済証文—庶民のトラブル解消法をまなぶ—	日比
第7講	慶安御触書—有名な農民教諭書を読む—	神崎直美 (城西大学専任講師)
第8講	村法 パート2—村の暮らしにタイムトラベル—	神崎
第9講	武家諸法度—期待される大名像を考える—	伊能
第10講	公事方御定書—文体が語る裁きの法理—	伊能

* 4月14日～6月23日の木曜日13:00～14:30/定員40名

博物館入門講座2005(4月～8月)

実物教育に重点をおいた少人数制入門講座です。かゆいところに手が届きます。

第38回入門講座

「伝統工芸は今…漆器の伝統と現在」

第1講	漆器とは? 忘れられた“知恵”と“工夫”の伝統	外山徹 (明大博芸員)
第2講	下地 ～輪島塗 飛騨春慶 他	外山
第3講	漆芸 ～木曾漆器 飛騨春慶 他	外山
第4講	加飾 ～高岡漆器 香川漆器 他	外山
第5講	漆器製品の見方・買い方	外山

* 5月10日～6月7日の毎週火曜日15:00～16:30

4859～5A10Dnk

第39回入門講座

「展示ケースの向こう側—考古コレクションの逸品たち—」

第1講	旧石器時代ってどんな時代?—化石人骨研究のいま—	島田和高 (明大博芸員)
第2講	原史世界の拡張と旧石器研究草創期—岩宿遺跡—	島田
第3講	まずは旧石器人、黒曜石をもとめて—嵐山遺跡群—	島田
第4講	続いて縄文人、黒曜石をもとめて—嵐山遺跡群—	大竹幸恵 (星くずの里嵐山黒曜石体験ミュージアム学芸員)
第5講	縄文海進と海産資源の利用—夏島貝塚—	島田
第6講	日本農耕文化のはじまり—板付遺跡—	忽那敬三 (明大博芸員)
第7講	弥生青銅器の世界—明大コレクション—	忽那
第8講	再葬墓ってなに?—出流原遺跡—	忽那
第9講	東国の古墳時代—霞ヶ浦沿岸の古墳群—	小玉秀成 (玉里村立史料館学芸員)
第10講	古墳のマツリと埴輪—舟塚古墳—	忽那

* 5月12日～7月14日の毎週木曜日15:00～16:30

各講座の詳細は「2005リバティ・アカデミーパンフレット総合案内」をご覧ください。
講義の日程や内容は変更になることがあります。ご了承ください。
お問合せは、公開講座:リバティアカデミー事務局(Tel 03-3296-4423)、
入門講座:博物館事務室(Tel 03-3296-4448)までお願いします。

来た・見た・聞いた 明治大学博物館

メディア掲載一覧

資料写真掲載

- 資料掲載<「和泉国日根郡嘉祥寺村文書」> 『田尻町史』<歴史編> 大阪府泉南郡田尻町
- 資料掲載<「引廻行列」(『刑罪大秘録』)> 『近代日本社会と部落問題』大阪人権博物館
- 資料掲載<西南戦争の投降勅告ビラ> 朝日ビジュアルシリーズ『週刊 司馬遼太郎「街道をゆく」』第13号 朝日新聞社
- 資料掲載<地方測量之図> 小学校向けビデオ教材『調査・体験からはじめる歴史学習』第5巻 TDKコア株式会社
- 資料掲載<東京自慢日本橋御高札場之図> 新井 益太郎『江戸語に学ぶ』三樹書房
- 資料掲載<中期壺形土器<丸子式><岩櫃山式>(群馬県岩櫃山遺跡)> 『群馬の遺跡』第3巻上毛新聞出版局
- 資料掲載<勾玉(古墳前期・出土地不明)> 『ビジュアルワイド社会科資料集』(株)東京書籍
- 資料掲載<尖底土器(神奈川県夏島貝塚)><打製石器(群馬県武井遺跡)> 『サンデーサビックス単科選択講座』(株)りいふしゅっぼん
- 資料掲載<深鉢(神奈川県大丸遺跡)><石器(群馬県岩宿遺跡)> 『日本の考古ガイドブック』東京国立博物館
- 資料掲載<埴輪窯址群(茨城県馬渡遺跡A地点)> 『図説 那珂・久慈・多賀の歴史』(株)郷土出版社
- 資料掲載<鎌を腰に差した人物埴輪> 『群馬の遺跡』第5巻上毛新聞出版局
- 資料掲載<ナイフ形石器(群馬県岩宿遺跡)><石包丁(京都府深草遺跡)> 『小学6年社会演習』(株)エデュケーションナルネットワーク
- 資料掲載<発掘当時の法堂遺跡>他計8点 『図説 土浦・石岡・つくばの歴史』(株)郷土出版社
- 資料掲載<長野県和田東山3号古墳石室> 『長野市誌』15巻総集編 長野市教育委員会
- 資料放映<磨製石斧><縄文土器><黒曜石石刃> NHK教育テレビ高校講座・化学「炭素とケイ素」2004年10月29日
- 資料放映<「白洲の図」『徳川幕府刑事図譜』> フジテレビ「トリビアの泉～素晴らしきムダ知識～」2004年11月10日

館紹介等の取材・撮影・掲載(新聞・雑誌)

- ◇掲載<明治大学博物館> 『産業新潮』9月号 (株)産業新潮社2004年9月1日
- ◇掲載<明治大学博物館> 『歩く 東京下町'05』(株)昭文社2004年9月3日
- ◇掲載<明治大学博物館> 『Do-classic』10月号(株)ショパン2004年9月20日
- ◇掲載<明治大学博物館> 『マップルマガジン 東京2005年度版』(株)昭文社2004年10月1日
- ◇掲載<明治大学博物館> 『TOKYO老舗・古町・お忍び散歩』朝日新聞社2004年11月1日
- ◇掲載<明治大学博物館> 月刊『修学旅行』(財)日本修学旅行協会2004年11月1日
- ◇掲載<明治大学博物館> 『しんぶん 赤旗』2004年11月17日
- ◇掲載<明治大学博物館> 『週刊朝日』朝日新聞社2004年11月23日
- ◇掲載<明治大学博物館「地域子ども教室」> 『朝日小学生新聞』朝日学生新聞社2004年11月30日



「白洲の図」(『徳川幕府刑事図譜』)

団体見学の記録 2004年9月～11月

- 【一般】 NHK文化センターさいたま教室現地講座「歴史の小径」43名/磐田支部人権擁護委員会23名/日本ウォーキング協会194名/尚史会20名/国分寺市歩き芽出すの会26名/おほむらさき会32名/明治大学付属明治高等学校・中学校PTA(教務委員会)8名/川崎市立小学校教頭会28名
- 【小・中学校】 山形県高島町立第二中学校8名/明治学院中学校42名
- 【高等学校】 福岡県立鞍手高等学校115名/明治大学付属明治高等学校第2学年28名
- 【大学】 日本文化大学14名
- 【その他】 研究助成連絡会20名

博物館 友の会から

“博物館図書室ボランティア”

聞くところによると、友の会会員による図書室管理・入室受付の仕事は、会発足の1年か2年後には始まっていたそうです。いまは“図書室ボランティア”になっています。

図書室ボランティアは、入室者・退室者を把握・記録します。それは、秩序正しい図書室の利用をはかることは大切だからです。仕事量としては少ないのですが、仮に博物館のスタッフが仕事の一部として実行するならば、利用者の不定時の入退室によって集中力・注意力がたびたび中断され、本来の実務に大変差し支えるような性質のものであります。これを友の会会員が分担す

ることで、間接的に博物館の仕事に貢献できると考えています。

担当者は、受付の仕事のない時間には一般利用者と同様に図書を自由に探し、取り出して読むことができます。代々の先生方と学生さん達が利用してきた図書、また先達の人びとの業績に触れることのできる図書を読み、その人なりにいろいろと感慨を持つことがあるでしょう。

現在は約20人のメンバーで勤めています。月に1~2回の割り合いで担当する人が多い状況です。長く勤めてくださる方が多いのですが、定常的に新しく参加する方を求めています。参加希望者は友の会連絡先(担当岸井)までご連絡ください。

(図書ボランティア 岸井 貫)

【博物館友の会 連絡先】
 〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
 明治大学博物館 友の会宛

博物館案内

【開館情報】

開館時間 10:00~16:30 (入館16:00まで)

休館日 8月の土・日曜
 夏期休業日(8/10~8/16)
 冬季休業日(12/26~1/7)
 創立記念祝日(11/1)

※開館時間・休館日には変更場合があります。

観覧料 常設展無料
 特別展は有料の場合があります。

【図書室ご利用案内】

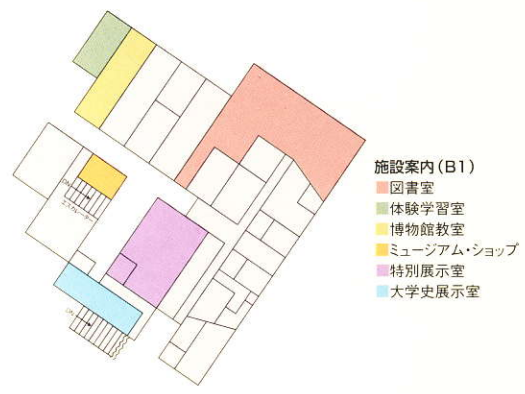
開室時間 月・金 10:00~18:30
 (8,9,2,3月は10:00~16:30)
 火~木 10:00~16:30
 土 10:00~12:30

閉室日 日曜・祝日・大学が定める休日

※図書室はどなたでもご利用いただけます。
 ※蔵書は原則閲覧・コピーのみとなりますのでご了承ください。



交通機関
 JR御茶ノ水駅(中央線)から徒歩5分
 地下鉄御茶ノ水駅(丸の内線)から徒歩8分
 地下鉄新御茶ノ水駅(千代田線)から徒歩8分
 地下鉄神保町駅(都営新宿線・半蔵門線)から徒歩10分



施設案内(B1)
 ■ 図書室
 ■ 体験学習室
 ■ 博物館教室
 ■ ミュージアム・ショップ
 ■ 特別展示室
 ■ 大学史展示室

Mm 編集後記
 新しい博物館ではじめての年越しです。ようやく活動も充実してきて博物館らしくなってきました。本年もよろしくお祈りします(しま)。資料に対して、愛情を持つようになりました。収蔵庫は愛に満ちている!?(Tn)。次回担当の時はさらに役に立てるようになりたいと思います(さと)。